

アイヌ語ネコンネコン

食べ物って何て言うの？

オホーツク管内斜里町・斜里小5年 佐々木一帆さん

瀧口：秋といえば食べ物がおいしい季節ですね。「食べ物」はアイヌ語で何と言うんでしょうか、という質問です。

北原：よく使うのは「イペ」ですね。「人が食べる物」で「アエア」とも言えるし、旭川市ではアネアとも言います。それから北海道の東の方ではアル、西の方ではハルという言葉もある。「豊作だ」ということを、「食べ物がある」の意味で「ハルアン」と言ったり。

瀧口：ハルもよく聞きますね。
北原：うん、そうそう。秋なのにハル（春）アン（になる）…。

瀧口：サンマを楽しみにしてる人もいますよね。根室市でよくとれるけ

ど、胆振管内白老町では「シリカプチェッポ」って言うんだって。

北原：ハルなのに秋…。

瀧口：シリカプは魚の「カジキ」、チェッポは「小魚」でしょう。どうして、こう言うんだろう。

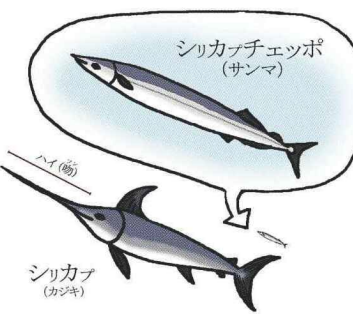
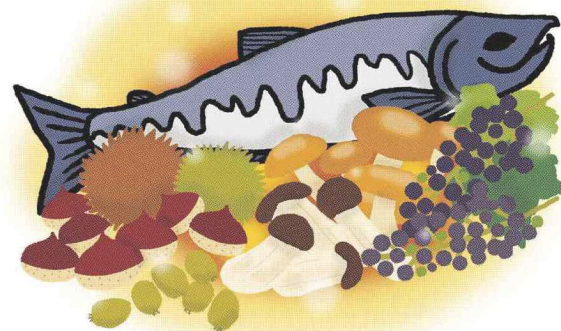
北原：大きさはちがうけど、見た目が似てるかも。

瀧口：オハイネ（なるほど）。あとは、カジキってイワシとかサバのほかに、サンマも食べるらしいんだよね。

北原：オハイネ。「ハイ（日本語で吻）」っていう、カジキのとがった鼻みたいなところをふりまわして、魚をたたいてとるんだってね。

瀧口：ハイ。なんちゃって。あらやだ、うつっちゃった。

ハル(食べ物)+アン(がある)=ハルアン(豊作だ)
秋なのにハル(春)アン(になる)



題字・イラスト 小笠原小夜

このコーナーでしょうか
いたアイヌ語の発音は
「まなぶんデジタル」の
専用ページ＝
QRコード＝
で聞くことができます



北原モコトウナシ 1976年、東京都生まれ。ルーツは樺太(サハリン)。北海道大学教授。むかしのアイヌ民族の暮らし、特に言葉、音楽、文学、宗教のことを調べている

瀧口夕美 1971年、釧路市生まれ。阿寒湖畔のアイヌコタンで育ち、幼少期からアイヌのおどりを習う。現在は京都市在住で、編集グループSUREという出版社の代表

「〇〇ってアイヌ語で何て言うの?」。小学生から寄せられた質問に、アイヌ民族の2人があーだこーだいうコーナーです。考えた言葉は公式でもなんでもなく、結論もとくに出しません。ネコンはアイヌ語で「どう(言うの?)」という意味です。